行けばわかるだろう

帰りは、東山七条で市電を降りて、
三十三間堂の中を抜けて、
本町のおばとこへ行くことにした。
そばのお寺の池の亀に挨拶した。
昔はまだ、三十三間堂の庭も解放されていて、
この辺は子供の遊び場だった。
おばとこに着くと、
おばが、長椅子台に横になっていた。
もうだいぶ、ましの様だった。
米やきゅうりを買って来て、おばあちゃんが帰って来た。
すこし、休んで、すぐ、僕は、おばに、
「ほな、おば、帰るわ、お大事に。」と言った。
おばは僕に二百円くれた。
「うちが、こんなに、お金持ってたら、
さあ、よっちゃん、家へ、二三万持って帰り、
とでも言って、お前に渡したいのやけどなあ。」
と笑いながら、手で札束の量を形取りながら、
おばは、僕に言ってくれた。
おばあちゃんが今買って来た米ときゅうりを
僕は家に持って帰ることになった。
「本当は、おばとこが食べるもんなのに。」